

令和8年2月13日、環境省が実施する「脱炭素先行地域」第7回公募において、大分市が「脱炭素先行地域」に選定されました。

脱炭素先行地域は、自治体の創意工夫により全国に横展開できる先進的な脱炭素モデルを構築し、地域の特性を生かしながら民生部門のCO₂排出実質ゼロを実現する地域です。選定にあたっては、脱炭素と地域課題解決を同時に実現できる提案の先進性・モデル性などが非常に高いレベルで求められており、本市は昨年10月15日に提案書を環境省に提出し、その内容が脱炭素先行地域に相応しい提案として評価を受けたことは、非常に意義深いものだと感じております。

多くの自治体がチャレンジする中、全国で100カ所程度しか選定されない脱炭素先行地域に、大分県内の市町村で初めて主たる提案者として選定されたという吉報を、市民の皆様にお届けすることができ、大変嬉しく思っております。

本市の取組のテーマは「医療」です。市民生活に欠かすことのできない地域医療の継続性を向上させるため、「平時」・「有事」・「市民」の切り口から脱炭素施策を推進することにしております。

この提案は、国の交付金 約27億円を含め、総事業費 約40億円に及ぶ大きな取組となります。この脱炭素先行地域を通じて、本市のまちづくりの柱の一つである「ひとを豊かに」に基づく、「このまちを次世代へ引き継ぐための持続可能なまちづくり」を力強く推進するとともに、本市が全国の先行例・模範となり、脱炭素社会の実現を目指す先進的な都市になれるよう、一層邁進してまいります。

大分市長 足立 信也